

京大病院におけるがん看護の現状と課題

文責 看護部 井沢知子

近年の技術革新に伴い、高度で複雑な医療が提供されるようになったいま、人々が抱える健康問題や医療に対するニーズは、ますます多様化・複雑化しています。2007 年にがん対策基本法が制定され、ここ数年でがん医療が一気に発展してきています。どの分野もそうですが、医療の中で看護師の存在は重要であり、今後のがん医療の中でも看護師に対する期待は大きいと考えています。今回は、現在のがん看護分野の専門性についての概要、および京大病院の現状と課題についてご説明します。

【専門看護師・認定看護師制度とがん看護分野の日本の現状】

日本看護協会は 1995 年に専門看護師制度、翌年の 1996 年に認定看護師制度を発足させました。これが看護の専門性を追求することの制度化のはじまりです。

専門看護師 (Certified Nurse Specialist : CNS) とは、看護系大学院を修了し、日本看護協会が規定する専門看護師認定試験を通過し特定の専門看護分野において卓越した看護実践能力と経験を有する看護師です。具体的な役割として、「卓越した実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究」の 6 つが課せられています。2009 年 3 月現在では、10 分野で計 302 名の専門看護師が全国各地で活躍しています。がん看護専門看護師は、専門看護分野の「がん看護」に特化した能力を有する者で、現在 128 名が活躍しています。ただ、がん看護専門看護師は、主に関東 (東京 神奈川) と関西 (大阪、兵庫) に偏在しているのが現状です。

一方、認定看護師 (Certified Nurse : CN) とは、日本看護協会の認定機関で 6 か月の研修を修了して試験を通過した、特定分野の看護実践能力と経験を有する看護師です。現在 17 の特定分野で全国で計 4438 名が活躍されています。役割としては、「実践・指導・相談」があり、当院でも 7 分野、11 名の認定看護師が各部署で専門性を発揮して活躍しています。がん看護に関連した認定看護師は、「がん化学療法看護」「がん性疼痛看護」「緩和ケア」「乳がん看護」「皮膚・排泄ケア」などが挙げられます。さらに、2009 年 4 月より「がん放射線療法看護」コースが開設予定であり、放射線領域の看護実践の質の向上が期待されます。

【京大病院におけるがん看護の現状】

現在、当院のがん看護に関連する専門・認定看護師は、がん看護専門看護師が 1 名、がん化学療法看護認定看護師 2 名、皮膚・排泄ケア認定看護師が 1 名という状況です。平成 21 年度には、新たながん化学療法看護認定看護師養成コースと緩和ケア認定看護師養成コースにそれぞれ 1 名ずつ研修を受ける予定であり、さらに、がん性疼痛看護認定コースや、今年から京都府看護協会が開講されるがん放射線療法看護認定コースへの受験予定の候補者がいます。2009 年 4 月にはがん看護専門看護師コースの大学院修了生 1 名が新たに着任予定であり、がん看護を専門とする看護師の活動が期待されます。

【がん診療連携拠点病院のオンコロジー看護師として期待されていること】

京大病院もこのたび、都道府県型がん診療連携拠点病院に指定される運びとなりました。これは、京都府のがん看護について先駆的な看護を行っていくという使命を基に、京都府下の病院の看護師へのがん看護の教育的役割を担うことや、新たな事業を展開することが期待されています。拠点病院の認可とともに、今回新たながん相談支援センターの開設、および 3 年前より厚生労働省が事業として掲げている「がん看護に強い看護師育成事業（40 日間研修）」という京都府下の看護師教育にも力を注いでいく必要があります。

以上より、京大病院も少しずつがん看護の充実が図られてきています。今後は、がんサポートチームによる緩和ケアのさらなる充実や、がん相談支援センターによる療養相談などの支援部門の充実が課題です。加えて、外来化学療法部ではがん化学療法看護認定看護師を中心に、抗がん剤投与のための血管確保のできる IV ナースレベルⅢの導入を計画中であり、支援部門だけでなく、がん化学療法や放射線療法などの治療部門にも積極的に看護師が関わり、がん医療に参画していきたいと考えています。さらに、当院だけでなく、京都府全域のがん看護の発展と充実を目指していきたいと思っております。